

項目 - 2カリキュラム（大学院修士課程）

（1）観点ごとの自己点検・評価

観点 - 2 - : 中期目標・中期計画に基づいて現職教員の様々な教育課題に対応できる臨床的実践力を育成する授業科目が機能的に配置されているか。

（観点にかかる状況）

i) 中期目標・中期計画に照らして、高度な実践的指導力を育成する教育課程が体系的に編成されているか。

現職教員をはじめとする大学院生の実践的な指導力を育成すべく、専門的な実践研究を推進していくために共通科目「実践場面分析演習」が必修科目として開設されているが、さらに本学が目指す教育実践学の構築を図るため、研究プロジェクトを推進している。研究プロジェクトの目的は、本学教員の単一または学際的かつ多領域に関わる共同研究を通して学校教育や教科内容等に関する諸問題を解決することであり、併せて、授業科目「研究プロジェクト関連科目」として「教育研究入門セミナー」と「研究プロジェクト・セミナー」を設定し、研究の成果を大学院教育に還元することである。具体的には、「教育研究入門セミナー」は、多様な研究方法と研究体系を学び、教育実践研究の推進を視座に入れた個々の修士論文研究に資するために開設されたものである。約15の領域にわたる教員の専門分野の基本概念や研究手法を紹介・解説する。「研究プロジェクト・セミナー」は、専門分野の基本概念や研究手法を生かして行われた教育実践学構築の成果について発表が行われ、大学院生がその発表についての討議に参加するものである。大学院生は様々な教育分野の実践研究やその手法を学び研究成果についての討議に加わることで、実践的指導力を身につけ、教育実践研究推進の在り方を学ぶことができる。「1」,[2]

また、平成13年度には学生による授業評価により、「研究プロジェクト・セミナー」についても報告がなされている。「3」

根拠データ

[1]「履修基準単位表」

履修単位の区分

修了要件を満たすための履修基準は次のとおりです。

区分	授 業 科 目 の 領 域	単位数	摘 要
共通科目	子どもの学びに関する科目 子どものこころのケアに関する科目	2	全専攻・コース共通とし、1科目2単位以上を修得するものとする。 所属する専攻・コース又は専攻する分野
	実践場面分析演習	4	所属する専攻・コース又は専攻する分野に開設される科目のうちから、2科目4単位以上修得するものとする。
専攻	専攻科目 学習臨床に関する科目 発達臨床に関する科目 臨床心理学に関する科目 幼児教育に関する科目 障害児教育に関する科目 言語系教育に関する科目	14	全専攻・コース共通とし、14単位以上障害児教育専攻にあつては、「障害児教育観察・参加A」、「障害児教育観察・参加B」又は「障害児教育観察・参加C」のいずれか1科目2単位を含む

攻 科 目	社会系教育に関する科目 自然系教育に関する科目 芸術系教育に関する科目 生活・健康系教育に関する科目		ものとする。)を修得するものとする。
	専門セミナー	8	所属する専攻・コース又は専攻する分野に開設される授業科目のうちから、2又は4科目8単位以上を修得するものとする。
研究プロジェクト関連科目		2	各専攻・コース共通とし、2科目2単位以上を修得するものとする。
計		30	

『平成16年度入学者用 履修の手引き P6』

[ 2 ] 「上越教育大学シラバス」

教育研究入門セミナー A

科目番号	5951	学期	前期	曜日・時限	(不定期) /
標準履修学年	大学院	単位	S1	履修方法	選択・必修
専攻・コース		教室	講301		
科目区分	研究プロジェクト				
担当教員	研究プロジェクト担当				
備考	平成16年度以降入学者				
履修条件	平成12年度以降入学者				

授業概要・目標

本学では、教育実践研究を推進していくために、研究プロジェクト推進機構を置き、個人研究と共同研究との有機的な結合によって大学の研究能力をより有効に発揮させ、その成果を教育に還元することを目的にした。それが研究プロジェクト関連科目であり、その一つが本セミナーである。

そのねらいは多様な研究方法と研究体系を学び、教育実践研究の推進を視座に入れた個々の修士論文研究に資するためである。

平成16年度は、特に15の領域に渡る教員の専門分野の基本概念や研究手法を紹介・解説すると共に、教員が提案するテーマについて討論し、まとめることを目標にする。

履修条件・注意事項

授業計画の(1)～(4)の授業4回を履修すること。

授業計画・内容

(1) 5月12日(水) 4・5限

「小学校英語のための小活動集に関するハンドブックの開発研究」

将来的に、公立小学校に英語科が導入されることが予想されるが、その際、公立小学校の学級担任が英語科に携わることが必要になると推測される。本プログラムは、その際にすぐに利用可能な教材である、ゲームを中心とする小活動集の開発を目的としているが、その開発状況等について説明する。

授業担当者 北條礼子

授業補助者 野地美幸, 若山真幸, カルテンバック・キャロリン, 大橋奈希左 他

(2) 6月2日(水) 4・5限

「特別な教育的ニーズのある子どものための個別的教育支援計画作成の実践研究」

特別支援教育においては、個に応じた作成される個別の指導計画をどのように作成し、どのように授業に活用し、どのように評価すべきか、大きな課題となっている。本授業では、個別の指導計画と授業への接続・評価との関連を実証的に考究する。

授業担当者 藤井和子, 笠原芳隆

(3) 6月23日(水) 4・5限

「相互コミュニケーション科目「表現」カリキュラム開発の意義と方法」

表現行為を通じた自己理解, 他者理解, 子どもの学習行為の理解をテーマにして, 学校教育における「表現」の意味について考える。また表現行為場面の観察調査と事例研究のあり方について概説する。

授業担当者 西村俊夫, 阿部亮太郎, 高石次郎, 土田了輔

(4) 7月7日(水) 4・5限

「身近な自然の発見とその教材化」

本学にとって身近な自然である緑の小道の林, 弁天池や雨池に生息する生物(特に動物)を紹介し, その発見方法と教材化の試みを提案する。

授業担当者 中村雅彦

成績評価の方法

教科書・参考書

適宜指示する。

#### 研究プロジェクト・セミナーA (抜粋)

科目番号	5953	学期	前期	曜日・時限	集中 7/16,20
標準履修学年	大学院	単位	S1	履修方法	選択・必修
専攻・コース		教室		講301他	
科目区分	研究プロジェクト				
担当教員	研究プロジェクト担当				
備考	平成16年度以降入学者				
履修条件	平成12年度以降入学者				

#### 授業概要・目標

本学では、教育実践研究を推進していくために、研究プロジェクト推進機構を置き、個人研究と共同研究との有機的な結合によって大学の研究能力をより有効に発揮させ、その成果を教育に還元することを目的とした研究プロジェクト関連科目を開設している。

各教員の専門分野の基本概念や研究手法を生かして行われた教育実践学構築の成果について発表が行われその討論に参加することを目標とする。

#### 履修条件・注意事項

#### 授業計画・内容

次の9課題について、基本的に午前中研究成果の報告を学会形式で行い、午後2時間程度討論、

その後レポート作成を行う。

2日間で、1日につき4ないし5課題を複数会場を使用し平行して行うので、1日につき1課題を選択して2日間参加すること。

7月16日（金）

（1-A）「小・中学校における特別な教育的ニーズを持つ子どもの実態とそれに対応した大学のカリキュラムのあり方」

現行の特殊教育（障害児教育）は特別支援教育へと移行しようとしている。こうした状況を考慮に入れると、今後はすべての教員が障害児教育に関わる知識、技能を有することがもてめられているといえる。本プロジェクトでは、こうした視点に立って、現在の小・中学校の実態を踏まえながら、今後の大学における教員養成のあり方を考えてみたい。

（学部で修得した科目を確認し、当日情報交換ができるように準備しておくこと。特に、障害児教育に関わる科目について整理しておくこと。）

タイムスケジュール

午前前半：講義

午前後半：講義に基づくレポート作成

午後前半：レポートに基づくグループ討議

午後後半：全体でのディスカッション

担当者 河合 康

場 所 講101

（1-B）「高等数学から「教師に必要な数学」への橋渡し教材の開発研究」

高校数学と大学数学との間にある乖離は、以前より議論的であった。多くの教員養成系大学ないし学部では、この乖離に係る問題点「教師に必要な数学」とは何かという論題とが重複し、大きな問題点となっている。本学ではブリッジ科目「算数」「基礎微分積分学」において高校数学と大学数学との間の橋渡しを目指している。この科目で扱う教材をより充実させる必要がある。この研究プロジェクトでは、教師に必要な数学を考察しつつ、高校数学から「教師に必要な数学」への橋渡し教材を開発してきた。

シンポジウム実施担当者が、小学校教師と中学校教師、数学教育研究者、数学者の各々立場からパネルディスカッションをし、会場から意見を求める。

タイムスケジュール

午前9時から

教師に必要な数学とは何かを論じつつ、これまで開発したブリッジ科目教材をプレゼンテーションする。

午後1時30分から

シンポジウム担当者が各々の立場から、教師に必要な数学とは何かをプレゼンテーションし、議論する。会場からの質疑を受け、教師に必要な数学とは何かについて議論を深化させる。

担当者 田中博、森博、中川仁、岩崎浩、高橋等、岡崎正和、長谷川真、田村雅人、林克己、梅澤健一

（1-C）「教科以外の活動（生徒指導、特別活動）における教師の指導能力に関する実証的研究」

旧教養審で指摘されたように、生徒指導や特別活動など教科以外の活動に必要な指導能力に

については、理論と実践を含めてほとんど研究が行われてこなかった。本プロジェクトでは、教育実習担当教員、指導主事等を対象とした調査結果をもとに、全国的にスタンダードな教員養成教育と現職教育の教育内容について研究開発を行うための基礎的データを収集し検討を行った。

#### タイムスケジュール

(午前) 10:00~12:00

研究成果報告並びに生徒指導、特別活動、道徳教育に関する歴史的変遷に関する基調講演  
(担当:石田美清)

(午後) 13:00~16:00 シンポジウム

教科以外の活動(生徒指導、特別活動)における教師の指導能力について 文部行政の観点、開かれた生徒指導の観点、新たな特別活動の観点、教員養成の観点からシンポジストにより話題提供を受け、参加者と討論を行う。

担当者 石田美清、三村隆男、藤田武志、森嶋昭伸(文部科学省教科調査官)、山極英夫(長野県公立中学校教員)ほか

場 所 講 2 0 1

(1-D)「上越地域の中学校におけるスクールカウンセリング活動のあり方について」

派遣先の中学校の特徴や上越地域という地域特性を踏まえた上で、どのような学校教育相談体制がスクールカウンセラー活動を円滑に機能させるのかについて、事例および調査結果を中心に明瞭化する。

#### タイムスケジュール

(午前)

9:30~ 2年間の調査研究の報告

10:30~ 外部からの招待者による講演会

(午後)

13:30~ シンポジウム「上越地域におけるスクールカウンセリングのあり方を考える」

15:30~ レポート作成

担当者 米山直樹、加藤哲文、林泰成、三村隆男、県教育委員会関係者(予定)

場 所 講 3 0 2

授業担当者 藤井和子、笠原芳隆

7月17日(土)

(2-A)「学部カリキュラムにおけるブリッジ科目 「理科」の問題点と今後のあり方、及びテキストの開発に関する研究」

「自然科学の感動やおもしろさ」を伝えることにより、理科が好きな子どもを育てる。さらに、このようなことを通して、学校で起こっている問題の解決が可能になると考えられる。このことをふまえ、教師になる学生のための自然科学と自然科学者養成のための自然科学は同じである必要はないと考えた。本研究は小学校教師になる学生のための自然科学のテキストを開発・作成し、ブリッジ科目 「理科」の内容を改善することを目的とする。

#### タイムスケジュール

「自然科学の感動やおもしろさ」を伝え「理科が好きな子どもを育てる」ための実践的教材の開発とその指導法に関する研究成果と、本研究に対する取り組み方について発表する予定

である。

担当者 庭野義英

場 所 講104

成績評価の方法

教科書・参考書

適宜指示する。

[ 3 ] 「平成13年度学生による授業評価報告書」

平成13年度学生による授業評価報告書（抜粋）

「研究プロジェクト・セミナー」

・授業での内容の良かった点は何ですか

今まで受講した約80の講義のうちで、最も内容の充実したものであった。具体的には、最近の話題を盛り込んだ理論と、実践を基礎として、社会一個人、研究一臨床（現場）の両側から分かりやすく丁寧に説明していた点が大変感銘を受けた。

・教え方の良かった点は何ですか

先生になるための授業の手本であると感じた。また、さすが現場経験のある先生は違うと納得した。さらに、学部時代から感じていることは、現場経験のある先生は皆授業作りが巧みで、学生は主体的に学ぶことが（授業中だけでなく授業後も学ぼうとする意欲を持続させることができるかどうかが大切）できると思う。

・先生になるための授業としてどのように感じましたか

分かりやすかった、ということは当然であるが、なによりも抽象 具体 抽象という授業プロセスが良かった。また、数例の事例を説明した後に、結論を導くという帰納的な手法も聴講者として受け入れやすかった。

・改善の必要があると思われる点

研究プロジェクト・ミナーの意図がよく分からなかった。それぞれがただ座って聞くだけで終わってしまった。

専門教科の講座（研究プロジェクト・ミナー）がなかったので、興味を持って参加できる講座（プロジェクト）が少なかった。

ii) 現職教員の多様なニーズに対応できる教育課程の編成に配慮しているか。

修了要件を満たすための履修単位の区分「専攻科目」は各専門領域に関する「専門科目」について、全専攻・コース共通で14単位履修することとなっており、大学院生が所属する専攻・コース以外の専門科目を必要に応じて自由に履修することを認めている。この履修方法の意図は、大学院生の一人ひとりの多様なニーズに対応でき、また、自らの研究課題に合わせて最適なカリキュラムを作成することを可能にさせることにある。

[ 1 ]

また、平成13年度には学生による授業評価の一つとして本学カリキュラム改善点のためのアンケート調査を実施している。[ 4 ]

根拠データ

[ 1 ] 「履修基準単位表」 略

[ 4 ] 「平成13年度学生による授業評価報告書」

平成13年度学生による授業評価報告書（抜粋）

3 カリキュラムの改善点について〔カリキュラム改善のためのアンケート調査〕

(1) 大学院

授業科目の編成や履修方法に関して「良かった」と思われる点について

1) 全学レベルにおいて

「学校現場との連携を意識した方向が出されていること」「実践的あるいは臨床実習など現場の課題に直結するような授業科目が準備されていること」「コースにとらわれずに様々な領域の科目を履修できる自由度の高いカリキュラム編成になっていること」「シラバスが準備されていること」をよしとする意見が目立った。

2) 講座または分野レベルにおいて

障害児教育講座において、盲・聾・養護の各分野にわたって科目編成がなされていることを評価する回答がみられた。

授業科目の編成や履修方法に関して「改善の必要がある」と思われる点

1) 全学レベルの問題

この観点に対する回答が最も多く寄せられているが、それらの内容をまとめると以下のようである。

a 授業について

科目名と内容が合致していない看板倒れのものがあることや、実践や学校現場とかけ離れた内容の授業が行われているという意見が挙げられた。

b シラバスについて

授業内容についての案内不足を指摘する意見が数件あった。

c 研究プロジェクト・セミナーについて

一部評価するものもあったが、全体的には、「教育との関連を明確に」「意図を明確に」「各教官の専門的分野に偏っている」「もっと多様なコースを設定してほしい」など多くの問題点が指摘されている。

d カリキュラムと同一分野の教官の在り方

同一講座もしくは分野であるにも関わらず、教官間に意思の疎通が希薄であることや指導方針が一致していないなど、横の連携が必要であるといった意見が寄せられている。

また、この他にも、免許関連科目の未開講の問題や履修登録の時期の問題など、検討をうながす意見があった。

2) 講座または分野レベルにおいて

講座または分野レベルの問題については、障害児授業論の開講時期、養護一種免コースの必修科目選定の問題など障害児教育関係の科目や、学習臨床に関する科目、美術教育に関する科目に改善の要望があった。

カリキュラムに新しく取り上げてほしい内容について

学部と同様に、全学レベルと講座または分野レベルを一括してその要望を取り上げると、次のようである。

学際的な内容のもの、国際交流や地域との連携を図った授業、各講座や分野における総合的な学習の時間や学習臨床的な科目の導入といった意見が出されている。また、授業名を特定

したものとしましては、生徒指導特論，社会調査，教育実践学などが挙げられている。

(分析結果)

優れている。

(根拠理由)

・「研究プロジェクト関連科目」は、授業改善のためのアンケート調査から学生には研究プロジェクトの目的が充分認識されていない状況も一部散見されるものの、「研究プロジェクト関連科目」の展開に代表される、現職教員の実践的指導力の向上と専門的な教育実践研究を推進する上で優れているといえる。

・大学院生が所属する専攻・コース以外の専門科目を必要に応じて自由に履修できるカリキュラムは、複数の1種免許状を取得している者が、専修免許状を取得する上で優れているといえる。

このように、高度な実践的指導力を育成する教育課程が体系的に編成されていると考えられる。

・カリキュラム改善のためのアンケート調査として、授業科目の編成や履修方法に関して「良かった」と思われる点、授業科目の編成や履修方法に関して「改善の必要がある」と思われる点、カリキュラムに新しく取り上げてほしい内容の3項目について、全学レベル及び講座又は分野レベルの視点で調査したことは今後カリキュラムを検討する上で優れているといえる。

観点 - 2 - : 授業内容と授業方法・形態が、目標・計画に照らして適切であるか。

(観点にかかる状況)

i) 授業内容及びその水準が、授与する学位との関係で適切であること。

学校教育における臨床的实践力を総合的に研究対象とする科目として、「子どもの学びに関する科目」と「子どものこころのケアに関する科目」が、共通科目の領域に3科目設定し、1科目2単位以上を修得するものである。[ 1 ]

また、多様な研究方法と研究体系を学び、教育実践研究の推進を視座に入れた個々の修士論文研究に資するための科目として「教育研究入門セミナー」を開設し、専門分野の基本概念や研究手法を生かして行われた教育実践学構築の成果について発表を行い、大学院生がその発表についての討議に参加する「研究プロジェクト・セミナー」を開設している。[ 2 ]

なお、専攻科目の「専門セミナー」は、各自の研究テーマを具体化するための科目で、所属する専攻・コース又は専攻する分野に開設される科目から、2又は4科目8単位以上を修得するものである。[ 5 ]

このように、大学院の修了要件を満たすための授業科目の領域に授業内容及びその水準が、授与する学位と関係する科目が選択必修として適切に位置付けられている。

根拠データー

[ 1 ] 「履修基準単位表」 略

[ 2 ] 「上越教育大学シラバス」 略

[ 5 ] 「授業科目の区分」

授業科目の区分

授業科目の区分	内 容
共通科目	学校場面に生起する諸問題に取り組み、学び合いの中から問題解決が可能となる実践力を育成するために、開設する。
専攻科目	現代の教育課題と学術研究の進展に対応した高度な専門性を形成するために、各専門領域に関わる専門科目と各自の研究テーマを具体化する専門セミナーについて開設する。



研究プロジェクト 関連科目	学校教育に関する広域な専門分野における方法論と教育実践学へのアプローチに関する方法論について開設する。
------------------	---

『学校教育研究科履修規程』

ii) 授業の内容が全体として、教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっているか。

本学大学院は、主として初等中等教育諸学校教員に対する再教育の機会を付与することで、学校教育に関する理論と方法を教授し、広い視野に立つ精深な学識を授ける。また、初等中等教育の場において創造的な教育・研究に取り組む力量を形成させるとともに、実践力に富む指導的な初等中等教育諸学校教員を育成することを目的としている。この目的を達成するため、i) で説明している授業科目の区分が「共通科目」、「専攻科目」及び「研究プロジェクト関連科目」で構成されている。[ 5 ]

また、大学院の科目のほとんどは、教育職員免許状の専修免許の課程認定（障害児教育においては、特殊教育免許状の1種免から専修免）を受けている。文部科学省への申請には必要書類ではないが、各教科の科目概要を求められ、全ての科目の内容がチェックされた上で認定されている。[ 6 ]

根拠データー

[ 5 ] 「授業科目の区分」 略

[ 6 ] 「上越教育大学大学院学校教育研究科開設科目概要一覧」

上越教育大学大学院学校教育研究科開設科目概要一覧（抜粋）

学習臨床コース

免許法上の 科目区分	授業科目	単位数及び 授業方法	必修・選択等の区分			担当教官名	科目概要等
			必修	選択	自由		
教職に関する科目	実践場面分析演習 「教育方法」	S 2				高田喜久司 小林 恵 菅岡強司 西 穰司 柴田好章 〔増井三夫〕	「問い」に関する先行研究を涉猟しつつ授業成立の観点から、問いのメカニズム、教材や教師発問の機能について実践に即して専門的、総合的に研究する。
	実践場面分析演習 「教育方法」	S 2				高田喜久司 小林 恵 菅岡強司 西 穰司 柴田好章 〔増井三夫〕	教育方法学に関する具体的な・文献・資料を取り上げ、教授・学習の問題点を明らかにし、その改善点の方途を探る。
	現代教育方法学特論	L 2				高田喜久司	授業病理の実態を明らかにし、授業の本質、授業過程の法則性、カリキュラム構成や授業構成の原理等教育方法学理論のエッセンスを歴史的・実践的に検討し、授業活性化の方向を探る。
	学習指導特論	L 2				柴田好章	多様な学習指導法の理論や方法を歴史的・体系的に概観し、そ

						の基盤となる知識，関心，問題解決，学習環境，コミュニケーション等に関する基礎的考察を深め，現代の実践的課題へのアプローチを探る。
	現代教育課程特論	L 2			小林 恵 菅岡強司	1890年代から現在に至る米国カリキュラム改革について諸論文を検討することでその過程を探る。

『上越教育大学の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定申請書（大学院の課程）平成11年11月』

iii) 授業の内容が，全体として学校教育の臨床的研究活動の成果を反映したものとなっているのか。

学校教育における臨床的な実践力を統合的に研究対象とする科目として，「子どもの学びに関する科目」と「子どものこころのケアに関する科目」が，共通科目の領域に3科目設定されている。これらの科目を設定した目的は，第1に，子ども一人ひとりの基礎的な学びの成立とその過程について具体的な事例の検討を通して理解する実力を養成すること，第2に，今日子ども一人ひとりにおける「こころの危機」に対処し，その困難を克服または低減するために必要な知識と技能を修得させることにある。[ 7 ], [ 8 ]

学校現場では，これらへの緊急の対応が求められており，本科目はそのニーズに応えるものとなっている。  
根拠データ

[ 7 ] 「子どもの学びに関する科目領域のシラバス」

#### 学習臨床学特論

科目番号	5 0 0 1	学期	前期	曜日・時限	木・4 /
標準履修学年	大学院	単位	L 1・S 1	履修方法	選択
専攻・コース		教室		講301	
科目区分	共通科目 子どもの学びに関する科目				
担当教員	松本 健義・松本 修・中村 光一・布川 和彦				
備考	平成16年度以降入学者				
履修条件	平成12年度以降入学者				

#### 授業概要・目標

子どもの論理による学習過程の実際の姿に基づきこれを支援することによって，子どもが自ら学び，生きる力を育てる教育実践研究の基盤となる授業科目である。子どもの学びの場面・過程に関わるあらゆる問題，すなわち，子どもの個々の論理による学びの成り立ちの要件とその過程，さらにそれに関わる内容（教材）や教師の支援（学習臨床カウンセリング），評価の在り方などについて，子どもの学びの過程の事例分析演習をまじえ，総合的に研究する。

#### 履修条件・注意事項

平成16年度入学者

#### 授業計画・内容

- 1 オリエンテーション 子どもの学びの臨床的過程と教育実践（4月15日：講301教室）
- 2 学びの過程の臨床的把握と支援1：表すことと学ぶこと（4月22日：講301教室 松本健義）
- 3 同 2：算数科の学び（5月6日：講301教室 布川和彦）

- 4 同 3：国語科の学び（5月13日：講301教室 松本 修）
- 5 同 4：社会科の学び（5月20日：講301教室 朝倉啓 ）
- 6 同 5：算数・数学の学び（5月27日：講301教室 中村光一）
- 7 同 6：生きることと学ぶこと（6月3日：講301教室 松本健義）
- 8 同 7：学びの過程に対応するカリキュラムと教育実践  
（6月10日：講301教室 松本健義）

9～15 子どもの学びの実践過程の臨床的演習（6月17日～9月9日）

- ・4教室に分かれて、子どもの学びを実践過程で実際にとらえ支える在り方について、さらに小グループに分かれて事例分析を行い、発表とディスカッションによる演習を行います。
- ・演習教室のグループ分けは、6月3日以降の講義の中で行い、教室は後日掲示します。

成績評価の方法

出席、講義内の小レポート、演習報告にて行います。

教科書・参考書

配布資料等によります。

[ 8 ] 「子どものこころのケアに関する科目領域のシラバス」

臨床実践援助法

科目番号	5003	学期	後期	曜日・時限	木・1 /
標準履修学年	大学院	単位	L2	履修方法	選択・必修
専攻・コース		教室	講302		
科目区分	共通科目 子どものこころのケアに関する科目				
担当教員	加藤 哲文・藤生 英行				
備考	平成16年度以降入学者				
履修条件	平成12年度以降入学者				

授業概要・目標

主として、学校における子どもの心と行動の問題への理解を深め、教師としての適切な対応方法を学習する。そのために、子どもの心と行動の問題に対する見立てと理解の方法、および適切な援助方法について解説する。

履修条件・注意事項

大学院 全学選択必修科目

授業計画・内容

[概要] 主として、学校における子どもの心と行動の問題への理解を深め、教師としての適切な対応方法を学習する。そのために、子どもの心と行動の問題に対する見立てと理解の方法、および適切な援助方法について解説する。

具体的な内容は、以下の通り。

- 10月7日 オリエンテーション（藤生）
- 10月14日 発達・生命・個（阿部）
- 10月21日 子どもの知的発達（内藤）
- 10月28日 子どもの学習意欲（中山）
- 11月4日 子どもの自己概念（越）

- 11月11日 教師に必要な「養育者－子ども」の関係性理解（吉田）
- 11月18日 教師に必要な思春期精神病理の知識（井沢）
- 11月25日 問題行動と人間関係の調整能力の育成（内田）
- 12月2日 休講
- 12月9日 問題の見立てと理解の方法（宮下）
- 12月16日 カウンセリングの考え方と援助方法（米山）
- 1月13日 事例研究の必要性とその方法（五十嵐）
- 1月20日 スクールカウンセラーや専門機関の利用法，対応組織の作り方（加藤）
- 1月27日 学校危機介入の考え方

#### 成績評価の方法

成績評価：出席状況と，レポート評価による。

レポート提出期日：2月3日（木）のみの授業時間（9時から10時）：時間厳守

提出先：上記授業時間の教員まで

内容：上記の講義内容に関係のあるテーマを自分で考え，それについて，レポートを作成する。

形式：A4版32字×25行3頁以内。手書きの場合，400字詰め原稿用紙6枚以内

レポート提出の際，表紙に，専攻コース（分野）名，学籍番号，名前，自分のレポートに関連が深いと思われる上記講義タイトルと講義担当教員名（例，講義タイトル「発達・生命・個」担当教員：阿部 勲），レポートテーマも記入すること。

評価の方法：レポートテーマに関連がある講義内容を受け持った教員が，そのレポートを評価する。出席状況を加味する。

#### 教科書・参考書

講義の都度説明する。

#### 学校実践援助法

科目番号	5004	学期	前期	曜日・時限	木・1 /
標準履修学年	大学院	単位	L2	履修方法	選択・必修
専攻・コース		教室	講202		
科目区分	共通科目 子どものこころのケアに関する科目				
担当教員	田中 敏				
備考	平成16年度以降入学者				
履修条件	平成12年度以降入学者				

#### 授業概要・目標

学校現場の事例やデータを，授業を実践している教師が即時的短時間で分析できる方法を開発的に提供する。これによって日々の授業実践が即，研究活動となるよう試みる。

統計分析手法のノンパラメトリック法を主な内容とする。

#### 履修条件・注意事項

#### 授業計画・内容

- 1 オリエンテーション
- 2 1×2表の検定
- 3 その応用（マクネマー検定・サイン検定）

- 4 1 × 2 表の母比率不等の検定
- 5 2 × 2 表の検定 (メディアン検定)
- 6 カイ二乗検定と残差分析
- 7 ランの検定
- 8 少数データの扱い方
- 9 実際の分析例 1
- 10 実際の分析例 2
- 11 実際の分析例 3
- 12 実際の分析例 4
- 13 社会調査的アプローチ
- 14 2 × 2 表の探索検定法
- 15 テスト

成績評価の方法

レポートと客観テストによる。

教科書・参考書

「ユーザーのための教育心理統計と実験計画法」(田中・山際, 教育出版)

「実践心理データ解析」(田中, 新曜社)

これらは「学校実験計画法」「学校多変量解析法」でも指定しているが

当該科目を履修しない者は購入する必要はない。こちらで資料を用意する。

iV) 講義, 演習・実習などの各種授業方法・形態が適切であるか。

本学の修了要件を満たすための履修基準は、「共通科目」、「専攻科目」、「研究プロジェクト関連科目」の3区分から成り立っている。「専攻科目」の一つである各専門領域に関わる「専門科目」は、大学院生が所属する専攻・コース以外の専門科目を必要に応じて自由に履修することを認めている。[ 1 ]

講義, 演習・実習においては、全学のカリキュラムは内外の研究論文の講読や最近の研究成果の解説などの理論的側面と、学校現場での観察あるいは観察データなどを取り込んだ展開、さらには現職教員が多数在籍するという特性を生かし理論的枠組みや学校現場での観察に関わるより実践的な観点からの討議などが行われるよう、教育方法を工夫している。[ 9 ]

現職教員の多い本大学院においては、大学院生の教育に関わるニーズを捉えることが、ある意味ではそのまま今日の教育的な課題を講義・演習に反映させることにつながっている。

根拠データ

[ 1 ] 「履修基準単位表」 略

[ 9 ] 「シラバス」

学習場面臨床学演習 ( 抜粋 )

授業概要・目標

学習場面臨床学特論での課題の解決と実現のため、具体的な学習場面における子どもの学びの成立を捉える視点と方法に関して、実際の学習場面のデータを活用した演習により検討する。これを、臨床教育開発演習へと展開するための研究を行う。

履修条件・注意事項

平成15年度入学者

「学習場臨床学特論」を履修していることが望ましい。

#### 国際理解教育演習（抜粋）

##### 授業概要・目標

総合学習における国際理解教育のあり方について、実践経験者による発表や文献に基づく討論を行い、そのあるべき姿を模索する。受講者の要望によるが、特に小学校英語に焦点をしぼり、可能であれば、近隣の小学校英語の授業を参観し、小学校英語の実態を知った上で、利点、問題点について討論する。

##### 授業計画・内容

第1回 ガイダンス

第2回 実践報告，文献研究等の割り当て

第3回～15回 授業参観，実践報告，文献研究による発表，討論

V) 教育内容に応じた適切な授業方法・形態の工夫（少人数授業，対話・討論型授業，フィールド授業，情報機器の活用，TAの活用など）がなされているか。

##### 少人数授業

大学院の授業科目は、共通科目及び専門セミナー以外は履修年度及び必修の指定はせず、学生は2年間通しての履修計画を立てている。[ 1 ]

なお、実践場面分析演習は専攻・コース・分野での必修科目であり、学部の実践セミナーとの合同授業であるため少人数授業に該当しないコース等があるが、専門セミナーは、個々の教員に学生が配属されるので少人数教育である。[ 10 ]

なお、共通科目及び研究プロジェクト関連科目以外の授業科目数510余り開設しているが、選択必修又は選択科目としているため一部の授業（28科目）以外ほとんどは少人数で実施している。[ 11 ]

##### 対話・討論型授業

・観点 - 2 - - i)で示した「研究プロジェクト関連科目」[ 2 ]

・「実践場面分析演習」(必修)

現職教員を含む大学院生と学部学生が合同で討議を行い、学部学生とともに学び合うことによって、大学院生の実践的指導力を一層伸長させるという学部教育と連携した「創造的カリキュラム」の実践がなされている。[ 12 ]

なお、実施形態等を把握するため、学部「実践セミナー」と大学院「実践場面分析演習」の状況調査を実施した。[ 13 ], [ 14 ]

##### フィールド授業

自然系コース（理科）の新たな取組として、理科野外観察指導者養成のための「理科野外観察指導実習」の科目10科目を平成16年度から開設した。

既存の5部門（物理，科学，生物，地学，理科教育）と連携しつつ、講義，実験をとおして野外観察のあり方，素材の研究や提供，運営方法や指導方法など実践を重視した指導をおこなうものである。[ 15 ]

##### 情報機器の活用

ほとんどの教室にビデオを視聴できるような設備が整えられており、こうした機材が講義，演習において広く活用されている。[ 16 ]

情報基盤センター内にマルチメディア処理室，音響データ分析室，応用処理室等を設け，各講座のビデオ機材では行いにくい処理がここで進められ，活用されている。

S C Sシステムを活用した大学間遠隔共同講義を行い,そこでの討議などに大学院生も参加させることで,大学院生が遠隔教育を学ぶだけでなく,実地に体験できる機会を設けている。[ 17 ]

#### TAの活用

指導者としての適性を有し,将来教員・研究者となることを予定している大学院生に,教育的配慮の下に学部の演習,実験,実習等の教育補助業務を行わせ,本学の教育の充実及び指導者としての機会提供を図るため,TAを実施している。具体的には,現職派遣者を除く大学院生にたいし,非常勤職員として,1授業科目当たり30時間を限度に実施している。[ 18 ],[ 19 ]

なお,平成16年度の実績は,59科目,1,850時間余りで56人の大学院生を採用した。

#### 根拠データ

[ 1 ]「履修基準単位表」 略

[ 2 ]「上越教育大学シラバス」 略

[ 10 ]「実践場面分析演習及び実践セミナー受講者一覧」

実践場面分析演習及び実践セミナー受講者一覧

実践場面分析演習(大学院)			実践セミナー(学部)			計
科目名	1年	2年	科目名	3年	4年	
「学習臨床」	12		「教育方法」		5	17
「学習臨床」	12		「教育方法」	1		17
「教育方法」		4				
「学習臨床」	9		「学習過程臨床」	11		52
「学習臨床」	10	21	「情報教育」	3	11	
						18
「学習臨床」		5				
「情報教育」						
「学習臨床」	16		「総合的学習」	5		21
「学習臨床」	14		「総合的学習」		5	21
「総合的学習」	2					
「発達臨床」	8		「心理臨床」	10		35
「学校心理」	1		「心理臨床」		9	
「学校心理」		7				
「発達臨床」	31		「生徒指導」	9		72
「生徒指導」		22	「生徒指導」		10	
「臨床心理」	18					35
「臨床心理」		17				
「幼児教育」・「生活科教育」	1		「幼児」	14		15
「幼児教育」・「生活科教育」	1		「幼児」		13	18
「幼児教育」		4				
A「障害児教育」	2					2
A「障害児教育」		2				2

B「障害児教育」	2				2
B「障害児教育」		1			1
C「障害児教育」	17				17
C「障害児教育」		18			18
「国語」	10		「国語」	17	27
「国語」	1	17	「国語」		18
「英語」	5		「英語」	12	} 34
「英語」		8	「英語」	9	
「社会」	16		「社会」	19	} 65
「社会」		14	「社会」	16	
「数学」	8		「数学」	13	} 21
「数学」		8	「数学」	13	
「理科」	9		「理科」	9	} 38
「理科」		12	「理科」	8	
「音楽」	12		「音楽」	12	} 40
「音楽」		4	「音楽」	12	
「美術」	14		「美術」	7	} 21
「美術」	14		「美術」	5	
「体育」	10		「保健体育」	15	} 26
			「保健」	1	
「体育」		15	「保健体育」		14
「技術」	2		「技術」	6	} 14
「技術」		3	「技術」		
「家庭」	3		「家庭」	6	} 23
「家庭」		5	「家庭」		

[ 1 1 ] 「20人以上が履修登録している科目」

20人以上が履修登録している科目一覧 (2004,7,7現在)

授業研究法特論	学校モラルトレーニング演習	障害児教育行政制度論
教育課程行政特論	学校多変量解析法	障害児教育学論
学習心理学特論	発達心理学特論	障害児授業論
学校の危機管理特論	社会心理学特論	障害児心理学論C
学年・学級経営特論	学級集団心理学特論	障害児研究法C
学校実験計画法	臨床的パーソナリティー発達論	障害児教育課程論C
学習臨床開発特論	発達障害学特論	特別支援教育論
総合的学習特論	学校臨床心理学特論	障害児教育実践学研究
学校教育相談特論	精神医学特論	セミナー
道徳教育特論	発達臨床研究セミナー	
合計 28科目		



[ 1 2 ] 「学部「実践セミナー」のシラバス」

実践セミナー 「総合的学習」

科目番号	3804	学期	後期	曜日・時限	月・5 /
標準履修学年	学部3年	単位	S2	履修方法	必修
専攻・コース		教室	講301		
科目区分	専門科目 実践セミナー 学校教育専修 学習臨床コース 総合学習分野				
担当教員	大悟法 滋・川村知行・濁川明男・藤岡達也・北條礼子・田島弘司・山崎貞登・ 小林毅夫・釜田 聡				
備考					
履修条件	平成12年度以降入学者				

授業概要・目標

附属中学校などで、公開実験授業に参加し、環境教育、国際理解、地域課題など、具体的テーマに基づいて、「総合的学習の時間」のカリキュラムをどのように開発するかを、授業分析を通して、問題点を検証しながら、公開授業などの授業実践について検討する。

その成果として、報告をもとに、記録及び報告書の作成に大学院生とともに参加し、卒業論文の課題との関連も探究する。

履修条件・注意事項

学習臨床コース総合学習分野所属の学生を原則とする。

授業計画・内容

- 1～2 オリエンテーション。全教員・全院生による研究課題の設定。
- 3～4 附属中学校などの公開実験授業への参加
- 4～13 院生とともに実験授業の分析報告と検討
- 14～15 発表会及び報告書の作成

成績評価の方法

演習の報告及び報告書について、担当教員の会議を経て判定する。

教科書・参考書

上越教育大学総合学習分野の報告書類のほか、随時、参考文献を案内する。

実践セミナー 「総合的学習」

科目番号	4804	学期	前期	曜日・時限	月・5 /
標準履修学年	学部4年	単位	S2	履修方法	必修
専攻・コース		教室	講201		
科目区分	専門科目 実践セミナー 学校教育専修 学習臨床コース 総合学習分野				
担当教員	大悟法 滋・川村知行・濁川明男・藤岡達也・北條礼子・田島弘司・山崎貞登・ 小林毅夫・釜田 聡				
備考					
履修条件	平成12年度以降入学者				

授業概要・目標

附属小学校などで、公開実験授業に参加し、環境教育、国際理解、地域課題など、具体的テーマに基づいて、「総合的学習の時間」のカリキュラムをどのように開発するかを、授業分析を通

し、問題点を検証しながら、公開授業などの授業実践について検討する。

その成果として、報告をもとに、記録及び報告書の作成に大学院生とともに参加し、卒業論文の課題との関連も探究する。

履修条件・注意事項

学習臨床コース総合学習分野所属の学生を原則とする。

授業計画・内容

- 1 ~ 2 オリエンテーション。全教員・全院生による研究課題の設定。
- 3 ~ 4 附属小学校などの公開実験授業への参加
- 4 ~ 13 院生とともに実験授業の分析報告と検討
- 14 ~ 15 発表会及び報告書の作成

成績評価の方法

演習の報告及び報告書について、担当教員の会議を経て判定する。

教科書・参考書

上越教育大学総合学習分野の報告書類のほか、随時、参考文献を案内する。

[ 1 3 ] 「学部「実践セミナー」、大学院「実践場面分析演習」の状況調査」

平成14年11月

各講座代表・分野主任 殿

教育課程検討専門部会

カリキュラム研究ワーキンググループ長

学部「実践セミナー」、大学院「実践場面分析演習」の状況調査

企画委員会教育課程検討専門部会では、企画委員会からの付託事項された学部、大学院の教育課程の見直し（特に授業科目の精選等）について検討中であり、問題点等の現状分析の関係から学部「実践セミナー」と大学院「実践場面分析演習」の状況について調査することとなりました。

については、各講座・分野に関わる上記授業科目の実状について、下記により提出くださるようお願い申し上げます。

なお、今後の予定としては、この調査を踏まえ意見交換会を行います。

記

1 学部「実践セミナー」と大学院「実践場面分析演習」の内容

(1) 両授業科目の実施が具体的にわかるもの

- ・実施形態
- ・テーマ、内容
- ・授業方法
- ・自己評価（成果と課題）等

(2) 実施に関する問題点

(3) その他

2 提出様式及び期限

- (1) 用紙はA4版サイズで1枚
- (2) 様式は任意（メールでも可）、冊子形態のものがあれば5部提出

(3) 期限；平成14年11月29日（金）必着

3 提出先及び問合せ先

教務課教務企画担当：細谷（内線3255，アドレスhosoya）

[ 1 4 ] 「実践セミナー・実践場面分析演習の内容」

実践セミナー・実践場面分析演習の内容（抜粋）

講座・分野	授業目標の設定と全般的特徴 （「実践場面」の捉え方を含む）	授業の実施形態	学部と大学院との連携の様式
学 教 育 習 方 法 臨 床 床 分野	各教員の判断により設定。原則として卒論，修論に間接的・直接的に関わるよう工夫	各教員の研究室においてゼミ形式で実施。時には全体で行う場合もある。 研究室別方式	
講 学 習 座 過 程 臨 床 床 分野	学部・教育実習を核とした授業計画，マイクロティーチング，授業検討，事後検討という一連の活動を行う。	研究室別方式	院生による学生のサポート。ただし，院生による授業分析を含む。 院生による学部生への指導中心
情 報 教 育 分 野	情報教育カリキュラムの構成とその実施上の工夫に関する知識と技能を共有することを目的とする。卒論，修論作成の支援プログラムともなっている。  (1)各自の実践経験に基づく情報教育の実践例を発表(2)全国の先進的な実践事例を紹介し分析(3)理想の情報教育の授業を作り，学校教育の現場で実践を試みる。		
総 合 学 習 分 野	付属小6年の「心の活動」の授業を観察し，それを5～6名の班に分かれてそれぞれ分析し発表する。	分野統一方式	
生 生 徒 徒 指 導 指 導 総 合 導 分 野 総 合 講 座	「生きる力」を身につけ，これからの社会や学校の変化に対応しながら学校での実践を形作っていく，柔軟で幅広い思考ができる教師の育成をめざす授業とし，ディベートを採用。	公式の授業としては10回計画されており，その内6回までは分野統一方式で講義（一部実習を含む）中心に行われている。その後，6チームに分かれて準備した後，3回に分けてディベート大会開催。 分野統一方式 グループ別方式	6チームを各々学部3年生1～2名，院1年生3名ずつ編成し，次の3つのテーマでディベートが行われた。 「総合的な学習の時間」はその趣旨を実現できるか，学校の部活動は廃止すべきだ，公立義務教育諸学校の選択の自由を認めるべきである。

				共同研究様式
心理臨床講座	臨床心理学・学校心理学分野	学校教育の現実的諸問題に関して、現職員性による発表を基に、その他の院生・学部生との討論を行っている。	学生側の準備を除くと、公式には10回授業が計画されており、1回の現職院生による発表は各3名が担当している。 分野統一方式	各発表のテーマを例示すると、次のとおりである。こんな学級?! あんな学級?! 進路指導、学校で身につけさせたいこと、児童生徒が身につけるべきもの、担任と保護者・職員間の連携、不登校の実状と対応、問題行動への対処など。

授業の実施形態： 分野統一方式， グループ別方式， 研究室別方式， その他

学部との連携様式： （現職）院生による学部生への指導中心様式， 学部生と院生との共同研究様式

合同授業と分離授業の併用様式， 事実上の分離授業様式

『学部「実践セミナー」及び大学院「実践場面分析演習」の展開状況整理票（平成14年度）』

[ 1 5 ] 「課程認定に係る科目の変更届」

教科（教職，養護，特殊教育）に関する科目の変更理由書（抜粋）

新		変更理由等
開設授業科目	単位数	
	必 選	
理科野外観察指導 実習 A	0.5	授業科目の充実に伴うもの (科目概要) 実習の場を林と池とし、食物連鎖の観点から林と池に生息する多種多様な生物とその相互関係を観察し、食物連鎖の野外観察のあり方、素材の提供、運営方法、指導方法、安全対策を現地で実際に学ぶことを目的とする。
理科野外観察指導 実習 B	0.5	授業科目の充実に伴うもの (科目概要) 実習の場を森とし、森に生息する多種多様な生物の野外観察を通して、その生息環境や生物同士の関係を考え、森における野外観察のあり方、素材の提供、運営方法、指導方法、安全対策を現地で実際に学ぶことを目的とする。
理科野外観察指導 実習 C	0.5	授業科目の充実に伴うもの (科目概要) 実習の場を川とし、川に生息する多種多様な生物の野外観察を通して、その生息環境や生物同士の関係を考え、川における野外観察のあり方、素材の提供、運営方法、指導方法、安全対策を現地で実際に学ぶことを目的とする。
理科野外観察指導	0.5	授業科目の充実に伴うもの

実習 D		<p>(科目概要)</p> <p>池や沼などでみられる浮遊生物(プランクトン)についてそのサンプリング方法や観察法、及びデータ処理の方法について実習を通して指導する。走査電子顕微鏡、蛍光顕微鏡等を実際に操作しながらプランクトンの生きた姿と微細形態の観察・撮影を行う。</p>
理科野外観察指導 実習 E	0.5	<p>授業科目の充実に伴うもの</p> <p>(科目概要)</p> <p>校庭，路傍，里山等の身近に生育する植物の分類，形態，生態についての観察のポイントと，山菜等の有用植物や有毒植物について，野外で生きた植物を 実際に観察しながら学ぶことによって，野外における植物観察の指導力を養成 する。</p>
理科野外観察指導 実習 F	0.5	<p>授業科目の充実に伴うもの</p> <p>(科目概要)</p> <p>初等中等教育では野外での地層観察や化石採集が求められている。本実習では地層観察方法や化石採集方法を実習し、採集された化石などから地質時代や古環境を検討する。</p>
理科野外観察指導 実習 G	0.5	<p>授業科目の充実に伴うもの</p> <p>(科目概要)</p> <p>大地の変動の観点から変成作用による地殻変動や火成活動の野外観察をおこなう。いろいろな岩石を観察することにより野外観察を指導するための基礎を習得させる。また火山災害についての安全対策を現地で実際に学ぶ。</p>
理科野外観察指導 実習 H	0.5	<p>授業科目の充実に伴うもの</p> <p>(科目概要)</p>
理科野外観察指導 実習 I	0.5	<p>授業科目の充実に伴うもの</p> <p>(科目概要)</p> <p>1泊2日の日程で暖候季の星夜観測実習を実施する。小学校4年理科および中学校理科第2分野の天文単元に出てくる、太陽、月、星座の日周運動および星夜観測の指導に適した季節、場所、方法等について、実際に観測しながら体得させる。</p>
理科野外観察指導 実習 J	0.5	<p>授業科目の充実に伴うもの</p> <p>(科目概要)</p> <p>身近な自然に見られる野草等の植物の生活史を、植物相互の関わり、昆虫との関わり、光・温度・水・土等の物理・化学的環境要因との関わり等の視点で総合的に理解するための観察能力を、実習を通して修得する。さらに、比較や分類等を通してプロセス・スキルズについても実習を通して学ぶ。</p>

教室等の情報設備状況

教室名	収容人数	教材機器	マイク	暗幕	スクリーン
講302	104	V, B, 8, U, OHP	有線, 無線		
講201	158	V, B, 8, U, OHP	有線, 無線		
講301	300	V, B, 8, U, OHP, CO, 教材提示	有線, 無線		
講003	48				
講103	50	V, 8, LD			
講104	50	V, 8, LD			
講202	195	V, 8, OHP, CO, 教材提示	有線, 無線		
人213	36	V			
人214	36	V			
人215	36	V			
人101	36	V			
人104	54	V, 8			
人105	54	V			
人106	54	B			
人107	54	V			
人201	36	V, LD			
人202	36	V, LD			
人203	36	V, LD			
人204	36	V, B, 8			
人205	60	V, LD			
人206	60	V, LD			
人207	60	V, LD			
人208	60	V, LD			
教育情報訓練室1	36	Mac 36台			
教育情報訓練室2	36	Windows 36台			
SCSスタジオ	40				
音401	14				
美410	14	V			
体205	18				
体401	12				

[17]「シラバス」

教育実践研究方法論特講

科目番号	5069	学期	後期	曜日・時限	月・4・5 /
標準履修学年	大学院	単位	L2	履修方法	選択
専攻・コース		教室	SCSスタジオ		
科目区分	専攻科目 専門科目 学習臨床に関する科目 教育方法臨床関係 情報教育関係				
担当教員	南部 昌敏				

備考	
履修条件	平成12年度以降入学者

#### 授業概要・目標

社会の変化とそれに伴う教育改革の流れの中で、新しい教育の創造や授業のあり方が議論され、その重要性の認識は高まる一方であるが、それらを実現するためには学校に基盤を置いた教育実践研究の蓄積が必要不可欠であり、現在、その研究方法論の確立が強く求められている。そこで本科目では、とくに授業開発・授業改善を目的とした教育実践研究を通して、それぞれの視点から実践研究のあり方やその方法論について検討を行うことを目的とする。この目的のため、本科目はSCS（Space Collaboration System: 全国の大学などを結ぶ衛星通信ネットワーク）を利用して複数の大学間を結び実施される。

#### 履修条件・注意事項

上越教育大学、鳴門教育大学、兵庫教育大学、岡山大学教育学部の4大学の教育方法関連の教員を中心に、名古屋大学教育学部、岐阜大学教育学部、広島大学の教員の協力を得て、協同して授業を進める。そのため本授業では、通信衛星を利用したSCS（スペース・コラボレーション・システム）による遠隔教育システムを利用する。

後期月曜日4、5時限（14:30-18:00）の2コマ続きで、隔週で計8回、講義と演習を交えて実施する。おおよその時間の流れを次に示す。

- 1) 講師となる先生のご講義（1時間程度）
- 2) 質疑（20分程度）
- 3) 休憩
- 4) 研究例の発表（30分程度）
- 5) 質疑（30分程度）
- 6) 研究方法論についての討論とまとめ（30分程度）
- 7) 試験またはレポート課題の提示

#### 授業計画・内容

本科目は、SCSを利用するため、毎週月曜日に2コマ連続で行う形式で実施する。したがって、2・3学期の間に8回の授業を行うこととなる。各回の担当予定教員は以下のとおりである。

- 第1回（10月18日） 小野瀬雅人（鳴門教育大）
- 第2回（10月25日） 村瀬康一郎（岐阜大）
- 第3回（11月1日） 南部 昌敏（上越教育大）
- 第4回（11月8日） 梅澤 実（鳴門教育大）
- 第5回（11月15日） 正司 和彦（兵庫教育大）
- 第6回（11月29日） 伊東 正貴（鳴門教育大）
- 第7回（12月6日） 川上 綾子（鳴門教育大）
- 第8回（12月13日） 総合討論・質疑応答

各回は基本的に、当日の担当教員による教育実践研究の方法論に関する講義とそれに関連する研究事例報告（各大学の院生による話題提供を含む）、それらに対する質疑応答やディスカッションからなる。各回で論議される詳細な内容は各教員の専門性に基きさまざまであるが、主として

教育工学

教育心理学

科学教育

教育方法学

などのアプローチを背景に授業や学習環境の開発・改善をめざした教育実践研究について検討を行う。

成績評価の方法

成績評価は、担当教員が試験の結果及び受講状況等を総合して行う。

試験は本科目の授業が終了する学期末に、報告書（レポート）により行う。

教科書・参考書

毎回の各講師から示される資料を、講師指定のホームページからダウンロードして活用する。

または、印刷資料を配付する。

#### 教育工学特論（抜粋）

科目番号	5099	学期	前期	曜日・時限	金・隔週18:00～21:00 /
標準履修学年	大学院	単位	L2	履修方法	選択
専攻・コース		教室	SCSスタジオ		
科目区分	専攻科目 専門科目 学習臨床に関する科目 情報教育関係				
担当教員	南部 昌敏				
備考					
履修条件	平成12年度以降入学者				

授業概要・目標

以下略

#### 教育メディア特別演習（略）

科目番号	5100	学期	後期	曜日・時限	金・隔週18:00～21:00 /
標準履修学年	大学院	単位	S2	履修方法	選択
専攻・コース		教室	SCSスタジオ		
科目区分	専攻科目 専門科目 学習臨床に関する科目 情報教育関係				
担当教員	南部 昌敏				
備考					
履修条件	平成12年度以降入学者				

授業概要・目標

以下略

### [18]「ティーチング・アシスタント実施要項」

#### 上越教育大学ティーチングアシスタント実施要項（抜粋）

（趣旨）

- 1 この要項は、大学院学校教育研究科（以下「大学院」という。）の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当を支給することにより、当該学生の処遇の改善に資するとともに、上越教育大学（以下「本学」という。）における教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図るため、必要な事項を定



める。

(名称)

- 2 前項に規定する教育補助業務を行う者の名称は、ティーチング・アシスタントとする。

(職務内容)

- 3 ティーチング・アシスタントは、授業科目を担当する教員(以下「授業担当教員」という。)の指示に従い、本学の学部学生に対する演習、実験、実習等の教育補助業務を行うものとする。

(身分)

- 4 ティーチング・アシスタントの身分は、非常勤職員とする。

(任用条件)

- 5 ティーチング・アシスタントは、大学院の優秀な学生のうち、次の各号に掲げる者に該当するものから任用するものとする。ただし、現職教育のため任命権者の命により派遣された大学院学生は、除くものとする。

(1) 学業が優秀で、人格が円満であり、かつ、指導者としての適性を有する者

(2) 教員・研究者となることを希望しており、ティーチング・アシスタントとしての経験が役立つと思われる者

(実施計画)

- 6 学部主事は、授業担当教員からティーチング・アシスタントによる教育補助業務の実施の希望があった場合には、別記第1号様式のティーチング・アシスタント実施計画申請書を作成し、学長に提出するものとする。

(授業科目の選定)

- 7 教育補助業務を実施する授業科目の選定は、教務委員会が行う。

- 8 ティーチング・アシスタントに教育補助業務を行わせる授業科目は、講義及び非常勤講師が担当する授業科目を除くものとする。

(任用計画)

- 9 学部主事は、申請した授業科目が、前項の規定により選定された場合には、別記第2号様式のティーチング・アシスタント任用計画申請書を作成し、学長に提出するものとする。

- 10 ティーチング・アシスタントの選考は、教務委員会が行う。

(勤務時間)

- 11 ティーチング・アシスタントの勤務時間は、月40時間(週10時間程度)以内を標準とし、当該学生が受ける研究指導及び授業に支障が生じないよう配慮するものとする。

(任用手続)

- 12 ティーチング・アシスタントの任用手続については、国立大学法人上越教育大学非常勤職員就業規程(平成16年規程第37号。以下「非常勤職員就業規程」という。)によるものとする。

(給与)

- 13 ティーチング・アシスタントの給与は、非常勤職員就業規程により取り扱うものとする。ただし、手当は時間給のみとし、他の給与は支給しないものとする。

(事前指導等)

14 授業担当教員は、ティーチング・アシスタントに教育補助業務を行わせるに当たっては、次の各号に掲げる事項を実施するものとする。

- (1) 事前における当該業務に関する適切なオリエンテーション
- (2) 継続的かつ適切な指導助言
- (3) ティーチング・アシスタントからの意見聴取等  
(実施報告)

15 授業担当教員は、ティーチング・アシスタントの任用期間が終了したときは、速やかに任用したティーチング・アシスタントについて、別記第3号様式のティーチング・アシスタント実施報告書を学部主事を経て、学長に提出するものとする。

[ 19 ] 「平成16年度 ティーチング・アシスタント」

平成16年度 ティーチング・アシスタント名簿(抜粋)

区分	授業科目名	学期	曜日 時限	ティーチング・アシスタント名			時配 間 数分
				専攻等	学籍番 号(略)	氏名 (略)	
共通	教育情報演習A1～3	通年	木1	学校教育専攻 学習臨床コース			60
共通	教育情報演習A4・C1～3	通年	月4	学校教育専攻 学習臨床コース			60
共通	教育情報演習D1～3	通年	月2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(家庭)			60
共通	教育情報演習B4・C4・D4	通年	金3	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(技術)			60
共通	体験学習D	不定期	土	教科・領域教育専攻 自然系コース(理科)			30
共通	体験学習E	不定期	木2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(保健体育)			20
共通	体験学習F	不定期	土	教科・領域教育専攻 芸術系コース(美術)			30
共通	体験学習G	不定期	土	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(家庭)			30
共通	体験学習H	不定期	土	教科・領域教育専攻 自然系コース(理科)			30
共通	体験学習I	不定期	土	教科・領域教育専攻 芸術系コース(音楽)			30

(分析結果)

優れている。

(根拠理由)

・大学院の修了要件を満たすための授業科目の領域に授業内容及びその水準が、授与する学位と関係する科目が選択必修として適切に位置付けられていることは優れているといえる。

・大学院の修了要件を満たすための授業科目の領域に授業内容及びその水準が、授与する学位と関係する科目「子どもの学びに関する科目」、「子どものこころのケアに関する科目」、「専門セミナー」及び「研究プロジェクト関連科目」が選択必修として適切に位置付けられていることは優れているといえる。

・現職教員の多い本大学院においては、大学院生の教育に関わるニーズを捉えることが、ある意味ではそのまま今日の教育的な課題を講義・演習に反映させる上で優れているといえる。

・「実践場面分析演習」は、各専攻分野ごとに、指導教員、大学院生、学部学生が合同で学校現場の実践について論じ合う特色ある授業であり、教職の専門性を形成する上で、優れているといえる。

・優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当を支給することにより、当該学生の処遇の改善に資するとともに、将来、研究者・教育専門職員になるためのトレーニングの機会提供等は、大学院教育の一環として位置づけ、中期目標・計画を実現する上で優れているといえる。

ただし、現職教員を採用できない規程になっているところが改善すべきと考えられる。現職教員を採用できれば、現在実施している「教員養成実地指導講師」を兼ねることができると考えられるからである。

このように、授業内容と授業方法・形態が中期目標・計画に照らして適切であると考えられる。

観点 - 2 - : 教育課程に照らして研究指導と学位論文審査の体制が適切であるか。

( 観点にかかる状況 )

i) 研究指導に対する適切な取組(複数教員による指導体制、研究テーマ決定に対する適切な指導、TA・RAの適切な活用など)が行われているか。

複数教員による指導体制

学位論文の作成は、学位論文指導教員が責任を持って取り組んでいるが、それらの研究が狭い視野に制限されることのないよう、講座で中間発表会を設けるなどして、複数のゼミの教員や学部生、大学院生、現職教員、教育委員会関係者が共同で学位論文の内容を検討し、意見や疑問を交換することが広く行われている。[ 2 0 ]

研究テーマ決定に対する適切な指導

指導教員を決めるに際しては、入学直後に行われるコースごとのオリエンテーションではコースの目標を示すだけでなく、各教員の教育・研究の紹介とそれに関わる質疑、大学院生との個別相談、2年次生からのアドバイスを含めるとともに、研究室変更の手続きについても説明を行っている。[ 2 1 ], [ 2 2 ]

また、オリエンテーション後の数週間をかけて、大学院生が複数の教員を直接訪れ、希望する研究テーマやその教員の指導可能なテーマについて何度も相談し、自らの研究に最も適した教員を選定できるように配慮している。

なお、研究テーマの決定においては、本大学院の一つの目的である初等中等教育諸学校教員の研究・研鑽という点にも鑑み、教員の専門に大学院生の研究テーマを合わせるといよりも、大学院生の問題意識をゼミなどを通して掘り起こし、吟味していく中でテーマを決定するよう努めている。これにより、大学院生が、大学院での研究を通じて、教員として教育現場で感じていた教育的な問題点や教科内容に関わる疑問点などについて、理解や考えを深めることを支援できるよう努めている。[ 2 3 ]

TAの適切な活用

本学の専門セミナー(学生各自の研究テーマを具体化し、その研究手法を取得させる。そのテーマが学位論文へと発展される科目)4科目にTA(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所博士課程の学生)

が配属され研究指導の補助を実施している。[ 2 4 ],[ 2 5 ]

RAの適切な活用

R Aの活用は平成9年度から実施されている。

本学独自で文部科学省へ要求する経費と兵庫教育大学の連合として要求する経費と二通りある。

平成16年度は本学が要求して配分された経費2,080千円で研究プロジェクト4件に4人をR Aとして活用し、連合からの配分509千円で研究プロジェクト1件に1人をR Aとして活用している。

また、都道府県等から派遣されている現職教員の学生は対象外となっている。[ 2 6 ],[ 2 7 ],「 2 8 」  
[ 2 9 ]

根拠データ

[ 2 0 ]「中間発表会」

上越教育大学自然系理科地学教室

卒業論文・修士論文中間発表会

日時：平成16年12月25日（土）

午後1により

会場：講義棟 301教室

発表者： 学部 3年生 2名  
4年生 2名  
大学院 1年生 1名  
2年生 2名

発表時間：発表20分 質疑10分

上越教育大学自然系理科地学教室

卒業論文・修士論文中間発表会プログラム

期日：平成16年12月25日（土）

会場：講義棟301教室

開式の時【13:00～13:05】

発表

- 1 佐渡市河ヶ瀬崎周辺の中新統下戸層産貝化石群の特徴  
【13:05～13:35】 学部3年 中島 渚
- 2 新潟県上越市およびその周辺における湧水と地質との関係  
【13:35～14:05】 学部3年 佐原友朗
- 3 富山県八尾地域の鮮新統三田累層産軟体動物化石群の特徴  
【13:05～13:35】 大学院1年 葉室麻吹

休憩【14:35～14:45】

- 4 GPS, SAT及び気圧計を用いた移動気象観測システムの開発  
ー移動性高気圧下における直江津-長野間の気圧・風分布調査ー  
【14:45～15:15】 学部4年 渥美裕史
- 5 福島県会津磐梯山の鉱物からみた形成史  
【15:15～15:45】 学部4年 小澤由佳
- 6 効率的なGPS可降水量算出システムの構築及びそれを利用した暖候季節高

田平野における海風侵入に伴う水蒸気変動の解析

【15:45～16:15】

大学院2年 長坂裕一

7 北部フォッサマグナにおける中新世後期から鮮新世の火成活動の変遷

【16:15～16:45】

大学院2年 廣野達也

休憩【16:45～16:55】

特別講演【16:55～17:55】

「上越地域の火山活動と地震」

上越教育大学 大場孝信

「星のふるさと館における天体観測体験」

—特に高校・大学を中心に—

星のふるさと館 館長 細谷 一

閉式の辞【17:55～18:00】

ハンマー祭【19:00～】

この発表会は一般に公開されています。

[ 2 1 ] 「オリエンテーション個別指導」

個別指導会場

・日時 平成16年4月8日(木) 13:30～17:00

専攻名等		教室等	出席教員	備考
学校 教育 専攻	学習臨床コース	講202(第2講義棟2階)	講座代表及び関係教員	
	発達臨床コース	講202(第2講義棟2階)	〃	
	臨床心理学コース	講202(第2講義棟2階)	〃	
幼児教育専攻		幼児心理実験室・人602	〃	
障害児教育専攻		障害児教育演習室1・人806	〃	
教 科 ・ 領 域 教 育 専 攻	言語系(国語)	人101(人文棟1階)	分野主任及び関係教員	
	〃(英語)	言語系共用会議室(人文棟3階)	〃	
	社会系	講101(講義棟1階)	講座代表及び関係教員	
	自然系(数学)	数学学生控室・資料室(自然棟7階)	分野主任及び関係教員	
	〃(理科)	人202(人文棟2階)	〃	
	芸術系(音楽)	音102(音楽棟1階)	〃	
	〃(美術)	共用会議室兼資料室(美術棟4階)	〃	
	生活・健康系 (保健体育)	人209(人文棟2階)	〃	
	〃(技術)	講003(第2講義棟地階)	〃	
〃(家庭)	人208(人文棟2階)	〃		

[ 2 2 ] 「学位論文指導教員の変更届」

平成 年 月 日

教育支援課長 殿

講座等名

講座主任等名

専門セミナー担当教員  
学位論文指導教員  
の変更について

このことについて、下記のとおり変更したいので、手続方お願いします。

記

変更年月日	平成 年 月 日			
専攻・コース	専攻 コース ( )			
学 生	年 次	第 年次	学籍番号	
	氏 名			
教 員	新			
	旧			
変更理由				

[ 2 3 ] 「最近の学位論文（修士）論文題目一覧」

最近の学位論文（修士）論文題目一覧（抜粋）

- ・ 学習臨床的アプローチによる学びを促す教師のかかわりに関する研究
- ・ 愛知県宝飯郡における環境教育についての一考察
- ・ 博物館と学校を結ぶ地域の学習資源活用に関する研究  
～ 信濃川火焰街道博学連携プロジェクトの実践を通して～
- ・ 保護者・地域住民の学校参加意識に関する研究  
- 「学校評議員」制度に対する意識実態を通して -
- ・ 高等学校における体験学習の心理的影響について
- ・ 幼稚園における4歳クラス児のトラブル解決 - 進級児と新入児の比較 -
- ・ 養護学校教師の個別の指導計画作成における保護者との連携とその関連要因

『平成17年度上越教育大学大学院案内 P58』

[ 2 4 ] 「兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科ティーチング・アシスタント実施要項」

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科

ティーチング・アシスタント実施要項（抜粋）

（目的）

- 1 この要項は、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（以下「連合研究科」という。）の優秀な学生（連合研究科の構成大学である上越教育大学、兵庫教育大学、岡山大学及び鳴門教育大学に配属された学生をいう。以下同じ。）に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当を支給することにより、当該学生の処遇の改善に資するとともに、将来、研究者・教育専門職員になるためのトレーニングの機会提供及び構成大学の教育の充実を図ることを目的とする。

（資格）

- 4 T・Aとして採用することができる者は、連合研究科に在学する学生とする。ただし、各都道府県等から派遣された現職教員の学生は覗く。

(職務内容)

- 5 T・Aは、当該学生の配属大学の学校教育学部（岡山大学にあっては、教育学部）又は学校教育研究科（岡山大学にあっては、教育学研究科）の学生に対する実験、実習、演習等の教育補助業務に当たるものとする。

(勤務時間)

- 9 T・Aの勤務時間は、当該学生の配属大学の長が定めるものとする。

(選考基準)

- 10 T・Aの選考基準は、次のとおりとする。

- (1) 優秀な学生であること。
- (2) 学生の能力・資質が、授業科目の教育補助業務の内容に適合していること。
- (3) 当該学生の研究等に支障を生じないこと。

附 則

この要項は、平成8年12月6日から実施する。

[ 2 5 ] 「平成16年度 ティーチング・アシスタント」

平成16年度 ティーチング・アシスタント（抜粋） (博士課程)

授 業 科 目 名	学期	曜日 時限	ティーチング・アシスタント名			時配 間 数分
			専 攻 等	学 籍 番 号 (略)	氏 名 (略)	
大学院 発達臨床研究セミナー	通年	月 1	学校教育実践学専攻 学校教育方法連合講座			7 1
大学院 生徒指導の制度・経営研究セミナー	通年	水 2	学校教育実践学専攻 学校教育方法連合講座			7 1
大学院 障害児心理・生理検査法 B	前期	金 3.4	学校教育実践学専攻 学校教育臨床連合講座			3 5
大学院 障害児研究法演習 B	後期	金 3.4	学校教育実践学専攻 学校教育臨床連合講座			3 5
学 部 数学基礎演習	前期	火 4	教科教育実践学専攻 自然系教育連合講座			3 5
大学院 代数学演習	後期	水 1	教科教育実践学専攻 自然系教育連合講座			3 5
学 部 工芸表現 A	通年	木 4	教科教育実践学専攻 芸術系教育連合講座			7 1
大学院 木工芸研究	前期	木 1.2	教科教育実践学専攻 芸術系教育連合講座			7 1
大学院 メディアデザイン研究	後期	月 1.2	教科教育実践学専攻 芸術系教育連合講座			7 1
大学院 技術科教育教材開発演習	前期	金 2	教科教育実践学専攻 芸術系教育連合講座			3 5
大学院 総合学習基礎研究セミナー	前期	木 3	教科教育実践学専攻			3 5

				芸術系教育連合講座			
大学院	総合学習応用研究	後期	木 3	教科教育実践学専攻 生活健康系教育連合講座			3 5
						計	600

[ 2 6 ] 「上越教育大学 リサーチ・アシスタント実施要項」

上越教育大学リサーチ・アシスタント実施要項（抜粋）

（趣旨）

- この要項は、上越教育大学（以下「本学」という。）における学術研究の一層の推進に資する研究支援体制の充実・強化及び研究者の養成・確保を促進することを目的とし、本学が行う研究プロジェクト等に兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（以下「連合研究科」という。）の学生で本学に配属された優秀な学生を研究補助者として参画させ、研究活動の効果的推進を図るとともに、研究補助業務を通じて研究者としての研究遂行能力の育成を図るため、必要な事項を定める。

（職務内容）

- リサーチ・アシスタントは、研究プロジェクト等を効果的に推進するため、研究補助者として従事し、本学の研究活動に必要な研究補助業務を行う。

（身分）

- リサーチ・アシスタントは、常勤職員の1週間当たりの勤務時間の4分の3を超えない範囲内で勤務する非常勤職員とする。

（任用条件）

- リサーチ・アシスタントは、連合研究科の学生で本学に配属された優秀な学生のうちから任用するものとする。ただし、現職教育のため任命権者の命により派遣された学生は、除くものとする。

（研究プロジェクト等の選定）

- 研究補助業務を実施する研究プロジェクト等の選定は、学長が行う。
- リサーチ・アシスタントの選考は、連合大学院委員会の議を経て、学長が行う。

（勤務時間）

- リサーチ・アシスタントの勤務時間は、年200時間（週20時間程度を上限とする。）程度を標準とし、当該学生が受ける研究指導及び授業に支障が生じないよう配慮するものとする。

（事前指導等）

- リサーチ・アシスタント受入教員は、リサーチ・アシスタントに研究補助業務を行わせるに当たっては、次の各号に掲げる事項を実施するものとする。

- 事前における当該業務に関する適切なオリエンテーション
- 継続的かつ適切な指導助言
- リサーチ・アシスタントからの意見聴取等

（連合研究科の研究プロジェクト等の取扱い）

- 連合研究科の研究プロジェクト等で、国立大学法人上越教育大学の教員が参画するものについては、本学の研究プロジェクト等とみなして、この要項を適用する。



[ 2 7 ] 「兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科リサーチ・アシスタント実施方針」

兵庫教育大学大学院連合学研究科リサーチ・アシスタント実施方針（抜粋）

（趣旨）

- 1 この方針は、兵庫教育大学大学院学校教育学研究科（以下「連合研究科」という。）の構成大学である上越教育大学、兵庫教育大学、岡山大学及び鳴門教育大学における連合研究科として実施する研究プロジェクト等に係るリサーチ・アシスタント（以下「RA」という。）の実施について必要な事項を定める。

（目的）

- 2 RAは、連合研究科における学術研究の一層の推進に資する研究支援体制の充実、強化及び研究者の養成、確保を促進するため、同研究科の優秀な学生（各構成大学に配属された学生をいう。以下同じ。）を研究プロジェクト等に研究補助者として参画させ、研究活動の効果的推進を図るとともに、研究補助業務を通じて研究者としての研究遂行能力の育成を図ることを目的とする。

（身分）

- 3 RAは、常勤職員の1週間当たりの勤務時間の4分の3を超えない範囲内で勤務する非常勤職員とする。

（資格）

- 4 RAとして採用することのできる者は、連合研究科に在学する学生とする。ただし、各都道府県等から派遣された現職教員の学生は除く。

（職務内容）

- 5 RAは、構成大学が行う研究プロジェクト等を効果的に推進するため、研究補助者として従事し、当該研究活動に必要な補助業務を行う。

（勤務時間）

- 9 RAの勤務時間は、当該研究プロジェクト等を行う構成大学の長が定める。ただし週当たり20時間を上限とし、通算して200時間以上となることを標準とする。

（選考基準）

- 10 RAの選考基準は、次のとおりとする。
  - (1) 将来、研究者となる意欲と優れた能力を有する学生であること。
  - (2) 学生の能力・資質が、研究プロジェクト等の研究補助業務の内容に適合していること。
  - (3) 学生の研究等に支障を生じないこと。

[ 2 8 ] 「RA実施計画等」

平成15年12月24日

学部主事 殿

庶務課長

平成16年度リサーチ・アシスタント実施計画について（照会）

平成16年度にリサーチ・アシスタントによる研究補助業務の実施の希望がありましたら、下記により「別記第1号様式（第6項関係）リサーチ・アシスタント実施計画申請書」を提出してください。

なお、平成16年度におけるリサーチ・アシスタント採用のための財源の確保等、諸条件が整うことを前提に準備するものです。

本件について、主指導教官にも配付しましたので、申し添えます。

記

- 1 提出期限 平成16年1月14日（水）
- 2 提出先 庶務課研究協力室（低層棟1階）

兵教大庶務2976号

平成15年12月15日

上越教育大学事務局長 殿

兵庫教育大学事務局長

川本幸彦

平成16年度リサーチ・アシスタント（RA）経費について（照会）

連合学校教育学研究科における標記経費については、従来と同様、本学が取りまとめを行う予定です。

については、貴学において標記経費の配分よ要する場合は、別紙により平成16年1月23日（金）までに本学庶務課へ提出願います。

なお、この照会は、平成16年度におけるリサーチ・アシスタント採用のための財源の確保等、諸条件が整うことを前提に行っているものであることを申し添えます。

本件について、主指導教官にも配付しましたので、申し添えます。

記

- 1 提出期限 平成16年1月14日（水）
- 2 提出先 庶務課研究協力室（低層棟1階）

[ 29 ] 「平成16年度リサーチ・アシスタント」

平成16年度リサーチ・アシスタント

リサーチ・アシスタント				研究プロジェクト等名	左の中心的組織名
所 属	氏 名 (略)	任 用 期 間 (略)	任用時間数		
教科教育実践学専攻 生活・健康系教育連合講座	/	6月1日から 3月31日まで	400 時間	技術科の評価基準の開発とカリキュラム評価	学校教育研究科
教科教育実践学専攻 芸術系教育連合講座		6月1日から 3月31日まで	400 時間	相互コミュニケーション科目「表現」の教育内容及び方法の開発と教育実践の理論の構築に関する研究	学校教育研究科
学校教育実践学専攻 学校教育方法連合講座		6月1日から 3月31日まで	400 時間	教師の職能発達における自己認識の変容過程に関する事例研究	学校教育研究科
学校教育実践学専攻 学校教育臨床連合講座		6月1日から 3月31日まで	400 時間	発達障害児を有する家族のQOL向上を目的とする積極的行動支援に関する研究	学校教育研究科
合 計				1,600時間	

- 1 任用時間数は、平成16年度支出予算の算定額2,080千円を申請時間数に応じて按分している。
- 2 平成16年度のリサーチ・アシスタントの1時間当たりの手当（時間給）は1,300円である。

平成16年度リサーチ・アシスタント  
（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科分）

リサーチ・アシスタント				研究プロジェクト等名	左の中心的組織名
所 属	氏 名 (略)	任 用 期 間 (略)	任用時間数		
教科教育実践学専攻 学校教育臨床連合講座	/	6月 1日から 3月31日まで	3 9 1 時間	聴覚障害児の音楽受容に関する 実験的検討	連合学校教 育学研究科

平成16年4月13日開催の第1回連合学校教育学研究科委員会において審議了承  
上越教育大学への予算配分額は509千円、配分時間単価は1,300円

ii) 学位論文に係る指導体制が整備され、機能しているか。

学位論文の指導体制は、1年次に入学した5月初旬には学生一人ひとりに専門セミナー担当教員と学位論文指導教員が決められる。専門セミナー担当教員は、学生各自の研究テーマを具体化し、その研究手法を取得させる。そのテーマが学位論文へと発展される。[ 3 0 ]

学位論文の題目届は修了予定年次の4月末日までに指導教員の同意を得て提出することとし、提出した論文の題目を変更する場合であっても、指導教員の同意を得て提出することとしている。[ 3 1 ], [ 3 2 ]

なお、学生に対する指導教員の把握は、1年次と2年次の5月初旬に教育支援課から各専攻・コース・分野に依頼し管理している。[ 3 0 ]

また、教育研究上有益と認めるときは、1年の範囲で他の大学院又は研究所等で研究指導を受けることができるよう規程の整備等を行っている。[ 3 3 ], [ 3 4 ], [ 3 5 ]

平成16年度の実績として、北陸研究センター及び長岡技術科学大学に各1名派遣している。

根拠データー

[ 3 0 ] 「平成16年度専門セミナー担当教員等について（照会）」

平成16年4月21日

（各講座代表等） 殿

教育支援課長

平成16年度専門セミナー担当教員等について（照会）

このことについて、下記により別紙に専門セミナー担当教員名、学位論文指導教員名及び研究題目（1年次生のみ）を記入の上、提出願います。

記

- 1 提出期限 平成16年5月7日（金）
- 2 提出先 教育支援課教務支援係（内線3275,3276）
- 3 記入方法 別紙用紙に記入する。

学位論文指導教員は「 教員」であること。

研究題目が未定の場合は、研究内容を記載する。

- 4 その他 長期出張，教員の採用等により変更が生じた場合は，その都度速やかに連絡願います。  
書式（エクセル）を必要とする場合は，ご連絡下さい。

[ 3 1 ] 「上越教育大学学位論文取扱細則」

上越教育大学学位論文取扱細則（抜粋）

（論文題目の提出）

**第2条** 論文を提出しようとする者は，別記第1号様式の学位論文題目届を，修了予定年次の4月30日（その日が日曜日又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときはその翌日，土曜日に当たるときはその翌々日。以下期日を規定した場合において同じ。）正午までに，指導教員の同意を得て，学務部教育支援課（以下「教育支援課」という。）に提出するものとする。

- 2 論文の題目を変更する場合は，別記第2号様式の学位論文題目変更届を，修了予定年次の10月31日正午までに，指導教員の同意を得て教育支援課に提出するものとする。

（論文の提出）

**第3条** 論文は，修了予定年次の1月10日正午までに，別記第3号様式の学位論文審査願に論文1編（正本1通，副本2通）及び論文の概要3部を添え，教育支援課に提出するものとする。ただし，修業年度を超えて在学する者に係る論文の提出期限については，修業年限を超えて在学する年度の7月31日正午までとすることができる。

**別記第1号様式（第2条関係）**

学 位 論 文 題 目 届

年 月 日

上越教育大学大学院

学校教育研究科長 殿

大学院学校教育研究科

専攻 コース

学籍番号

氏 名

下記のとおり学位論文題目等を定めましたので，お届けします。

記

学 位 論 文 題 目	
-----	-----
研究演奏名又は	

研究作品名	
-------	--

上記につき同意します。

指導教員 \_\_\_\_\_

(注) 指導教員氏名の記入は、署名(本人自署)又は記名押印のいずれかとする。

[ 3 2 ] 「学位論文題目変更届」

別記第2号様式(第2条関係)

学位論文題目変更届

年 月 日

上越教育大学大学院

学校教育研究科長 殿

大学院学校教育研究科

専攻                      コース

学籍番号

氏 名

下記のとおり学位論文題目等を変更しますので、お届けします。

記

新	学位論文題目	
	-----	
	研究演奏名又は 研究作品名	
旧	学位論文題目	
	-----	
	研究演奏名又は 研究作品名	

上記につき同意します。

指導教員 \_\_\_\_\_

(注) 指導教員氏名の記入は、署名(本人自署)又は記名押印のいずれかとする。

[ 3 3 ] 「上越教育大学学則」

上越教育大学学則（抜粋）

（他の大学院等における研究指導）

第73条 教育研究上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等（外国の大学院等を含む。以下「他大学院等」という。）との協議に基づき、学生が当該他大学院等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

2 前項の規定により他大学院等で研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

[ 3 4 ] 「上越教育大学派遣特別研究学生及び特別研究学生規則」

上越教育大学派遣特別研究学生及び特別研究学生規則（抜粋）

（他大学院等との協議）

第2条 学則第73条及び第86条に規定する本学と他大学院等との協議は、研究指導計画その他これに関連する必要事項について、教授会の議を経て、学長が行う。

第2章 派遣特別研究学生

（派遣の出願）

第3条 派遣特別研究学生として他大学院等の研究指導を受けようとする者は、次の各号に掲げる書類を指導教員の同意を得て、学長に提出しなければならない。

- (1) 派遣特別研究学生願（本学所定のもの）
- (2) 派遣特別研究学生略歴（本学所定のもの）
- (3) 派遣先担当教員（担当者）略歴及び研究業績概要（本学所定のもの）

（派遣の許可）

第4条 学長は、第2条に規定する協議の結果に基づき、派遣を許可する。

（派遣の期間）

第5条 他大学院等において研究指導を受ける期間は、1年以内とする。

（在学期間の取扱い）

第6条 派遣特別研究学生として研究指導を受けた期間は、本学の在学期間を含めるものとする。

（研究終了報告書等の提出）

第7条 派遣特別研究学生は、他大学院等における研究指導が終了したときは、直ちに（外国の大学院等で研究した者にあつては、帰国の日から1月以内）派遣特別研究学生研究終了報告書及び他大学院等の長が交付する派遣特別研究学生研究指導報告書を、学長に提出しなければならない。

（研究指導の認定）

第8条 派遣特別研究学生が他大学院等において受けた研究指導は、前条に規定する派遣特別研究学生研究終了報告書及び派遣特別研究学生研究指導報告書により、本学における課程の修了に必要な研究指導の一部として認定することができる。

（授業料）

第9条 派遣特別研究学生は、他大学院等で研究指導を受けている期間中も、本学の学生としての授業料を納付するものとする。

(派遣の許可の取消し)

**第10条** 学長は、派遣特別研究学生が次の各号の一に該当するときは、教授会の議を経て、当該他大学院等との協議の上、派遣の許可を取り消すことができる。

- (1) 研究指導計画の完了の見込みがないと認められるとき。
- (2) 本学又は当該他大学院等の規則等に違反し、又はその本分に反する行為があると認められるとき。
- (3) その他派遣の趣旨に反する行為があると認められるとき。

[ 3 5 ] 「上越教育大学派遣特別研究学生及び特別研究学生取扱細則」

上越教育大学派遣特別研究学生及び特別研究学生取扱細則（抜粋）

**第2章** 派遣特別研究学生

(派遣の出願期間)

**第2条** 派遣特別研究学生として出願を希望する者の出願期間は別に定めず、指導教員の同意を得て、学長に願い出を行った時期とする。

(派遣の出願書類の様式)

**第3条** 派遣特別研究学生に係る派遣特別研究学生願、派遣特別研究学生略歴、派遣先担当教員（担当者）略歴及び研究業績概要の様式は、別記第1号様式から別記第3号様式までのとおりとする。

(派遣の許可)

**第4条** 学長は、教授会の議を経て派遣を許可する。

(研究終了報告書等の様式)

**第5条** 派遣特別研究学生が他大学院等における研究指導終了に係る研究終了報告書及び研究指導報告書の様式は、別記第4号様式及び別記第5号様式のとおりとする。

**別記第1号様式**（第3条関係）

派遣特別研究学生願

年 月 日

上越教育大学長 殿

所 属

学籍番号

氏 名

派遣特別研究学生として、下記により他大学院等において研究指導を受けたいので、許可くださるようお願いいたします。

記

派遣先 (他大学院等)	名称	
	所在地	

派遣先担当教員 (担当者)	所属	
	氏名	
研究課題		
派遣期間	年 月 日 ~ 年 月 日	
他大学院等における研究指導を必要とする理由		
本学指導教員が必要と認める理由		
研究の方法		

指導教員 \_\_\_\_\_

(注) 指導教員の記入は、署名(本人自署)又は記名押印のいずれかとする。

別記第2号様式(第3条関係)

派遣特別研究学生略歴

ふりがな 氏名				性別	男・女
生年月日	年 月 日	本籍地	都・道・府・県		
現住所					
学 歴 ・	月 日				
	月 日				
	月 日				
	月 日				



職 歴	月 日	
	月 日	
	月 日	
備 考		

別記第3号様式（第3条関係）

派遣先担当教員（担当者）略歴及び研究業績概要

ふりがな 氏 名		生年 月日	年 月 日
現 職			
現 住 所			
最 終 学 歴 ・ 主 な 職 歴	月 日		
	月 日		
	月 日		
	月 日		
	月 日		
関 連 す る 研 究 業 績			

概 要	
学 位	

指導教員 \_\_\_\_\_

(注) 指導教員の記入は、署名(本人自署)又は記名押印のいずれかとする。

**別記第4号様式(第5条関係)**

派遣特別研究学生研究終了報告書

年 月 日

上越教育大学長 殿

所 属

学籍番号

氏 名

派遣特別研究学生として、他大学院等において研究指導を受けた研究指導の派遣期間が終了しましたので、下記のとおり研究結果を報告します。

記

派遣先 (他大学院等)	名 称	
	所在地	
派遣先担当教員 (担 当 者)	所 属	
	氏 名	
研 究 課 題		
派 遣 期 間	年 月 日 ~ 年 月 日	
研究結果の概要(別紙可)		

別記第5号様式(第5条関係)

派遣特別研究学生研究指導報告書

年 月 日

上越教育大学長 殿

他大学院等

名 称

職・氏 名

貴大学大学院の派遣特別研究学生に対して行った研究指導状況について、下記のとおり報告します。

記

派遣特別研究学生氏名		
研究課題		
研究期間	年 月 日 ~ 年 月 日	
担当教員 (担当者)	所属	
	氏名	
研究指導状況の概要(別紙可)		

iii) 学位論文に係る適切な審査体制が整備され、機能しているか。

学生が、学位論文の審査を受けようとするときは、学位論文審査願に論文及び論文概要を添え、研究科長に提出する。

提出された論文ごとに審査委員会及び専攻・コースごとの試験委員会を設置し、審査委員会は、研究指導を担当する教授又は助教授のうちから主査1人及び研究科担当を命じられた教員のうちから副査2人以上の組織としている。

試験委員会は、研究科担当を命じられた教員のうちから若干人をもって組織するものとし、審査委員会及び試験委員会の委員は、教授会の議を経て、研究科長が指名している。

審査委員会及び試験委員会はそれぞれの論文の審査及び試験の結果を教授会に報告し、教授会はその報告に基づき論文の合否判定を行っている。[ 36 ], [ 37 ]

根拠データ

[ 3 6 ] 「上越教育大学学位規則」

上越教育大学学位規則（抜粋）

平成16年4月1日

（規則第17号）

### 上越教育大学学位規則

#### 第3章 大学院

（論文の提出）

**第3条** 大学院学生が学位論文（学則第79条第2項に規定する研究演奏及び研究作品を含む。以下「論文」という。）の審査を受けようとするときは、学位論文審査願に論文及び論文概要を添え、学校教育研究科長（以下「研究科長」という。）に提出しなければならない。

2 研究科長が受理した論文及び論文概要は、返還しない。

（審査）

**第5条** 研究科長は、論文を受理したときは、論文ごとの審査委員会及び専攻・コースごとの試験委員会を設置し、それぞれ当該論文の審査及び試験を行うものとする。

2 審査委員会は、研究指導を担当する教授又は助教授のうちから主査1人及び研究科担当を命じられた教員（助手を除く。以下同じ。）のうちから副査2人以上をもって組織するものとし、その委員は、教授会の議を経て、研究科長が指名する。

3 試験委員会は、研究科担当を命じられた教員のうちから若干人をもって組織するものとし、その委員は、教授会の議を経て、研究科長が指名する。

（試験）

**第6条** 試験は、論文の審査に合格した者に対し、当該論文を中心とし、その関連分野について、口述により行うものとする。ただし、教授会が必要と認めるときは、他の試験方法を併用することができる。

（審査結果の報告）

**第7条** 審査委員会及び試験委員会は、それぞれ当該論文の審査及び試験の結果を教授会に報告するものとする。

（総合審査）

**第8条** 教授会は、論文の審査及び試験の結果に基づき、当該論文の合否判定を行うものとする。

[ 3 7 ] 「学位論文審査願」

別記第3号様式（第3条関係）

学 位 論 文 審 査 願

年 月 日

上越教育大学大学院

学校教育研究科長 殿

大学院学校教育研究科

専攻                      コース

学籍番号

氏 名

上越教育大学学位規則第3条第1項の規定により、学位論文1編（正本1通，副本2通）及び論文概要3部を提出しますので，審査願います。

なお，当該学位論文の題目等は，下記のとおりです。

記

学 位 論 文 題 目	
-----	
研 究 演 奏 名 又 は 研 究 作 品 名	

指導教員 \_\_\_\_\_

（注）指導教員氏名の記入は，署名（本人自署）又は記名押印のいずれかとする。

（分析結果）

優れている。

（根拠理由）

- ・研究テーマの決定においては，教員の専門に大学院生の研究テーマを合わせるといよりも，大学院生の問題意識をゼミなどを通して掘り起こし，吟味していく中でテーマを決定するよう努めていることは優れているといえる。
  - ・RAの実施報告書には，得られた成果の所見（「RAを採用したことにより得られた成果」）を記入する項目があり，RAを採用したことにより得られた当該研究プロジェクト等遂行上の成果を具体的にかつ簡明に記入することと，RAとして従事し研究補助業務を行ったRA自身の成果等を具体的に記入させ，RA活用の報告を把握できることは優れているといえる。
  - ・学位論文の指導体制は，1年次に入学した5月初旬には学生一人ひとりに専門セミナー担当教員と学位論文指導教員が決められ，1年次から学位論文を目途とした指導体制は優れているといえる。
  - ・学生が論文を作成する上で，学位論文題目届，学位論文題目変更届及び学生が論文を提出する際に提出する学位論文審査願には指導教員の署名又は記名押印をすることとなっているため，指導教員の指導チェック体制が機能していると判断でき，指導体制が優れているといえる。
- このように，教育課程に照らして研究指導と学位論文審査の体制が適切であると考えられる。

（2）優れた点及び今後の検討課題

（優れた点）

共通科目の「子どもの学びに関する科目」と「子どものこころのケアに関する科目」の取り組みは，学校教育における臨床的実践力を総合的に研究する上から優れている。

（今後の検討課題）

論文の指導教員は、コース（幼児教育，障害児教育は専攻）を越えて指導教員となることができないこととしている。中期目標・中期計画にもあるように，大学院生については，全学的に柔軟な指導体制を確立することとし，年度途中の指導教員の変更も可能とするよう検討を要する。